

「鏡川の景観に関するアンケート」まとめ

平成 29 年度 第 3 回鏡川清流保全審議会 資料
高知市環境政策課 + (株) 西日本科学技術研究所

1 調査の目的

鏡川流域においては、源流域における配慮が十分でない開発行為、山林の手入れ不足、農地の耕作放棄地の増加など、自然環境や景観が阻害される問題が増加している。高知市では、現在 7 か所の「自然環境保全区域」を指定し保全を図っているが、今後さらに区域の指定を進め、こういった問題に対処していきたいと考えている。

本調査は、この区域指定に関して、市民が思い描く鏡川流域の大切な場所や、残したいと考える景観などについて問いかけ、将来にわたって守り活かしていくべき場所などを明らかにしていくための基礎資料としていくものである。

2 調査概要

- ◇調査実施期間：2017 年 11 月 28 日～12 月 22 日
- ◇調査対象者：高知市住民基本台帳より無作為抽出
- ◇有効回収率：21.1%

3 結果概要及び考察

3-1 回答者属性

- ◇調査票は地区別の意識の違いを把握できるようにするため、高知市（598 部）、鏡地区（全戸配布）、土佐山地区（全戸配布）に分けて配布し、回収数はそれぞれ 124 部、117 部、90 部。回収率は 3 地区ともほぼ変わらず、21%前後。
- ◇居住年数は、51 年以上がほぼ半数を占め、次いで 50 年以内（20.0%）、30 年以内（19.7%）と続き、30 年以上の居住が 7 割弱を占めた。☞鏡地区、土佐山地区に 51 年以上の居住者が多い。
- ◇回答者の性別は、男性がおよそ 7 割、女性が 3 割。年代は、60 歳代が最も多く（27.5%）、70 歳代（22.4%）、80 歳代（17.9%）と続く。☞年齢層は高い結果。

3-2 鏡川清流保全条例の認知度

- ◇条例を知っていた人は約 2 割、聞いたことがある人は約 4 割、知らない人が 4 割弱。
- ☞高知市に知らない人が多く、半数以上。

3-3 鏡川と聞いてイメージする場所

- ◇「全ての流域」が半数弱を占めて最も多い。次いで「鏡・土佐山地区などの上流域」（25.4%）、「宗安寺から河口までの下流域」（17.9%）と続いた。
- ☞居住地の近くをイメージする傾向は見られるが、全体としては「全ての流域」をイメージする人が多いという結果。

3-4 鏡川及び流域の問題点

- ◇「子供が遊ばなくなった」（51.6%）が半数以上と最多。次いで「生きものが少なくなった」（46.6%）、「瀬や淵が減った」（43.9%）と続いた。
- ◇「条例などの規制不足」は 8.4%と少ない。
- ☞瀬・淵の減少、生きものの減少、水質の悪化など自然資源に関わる問題点については、鏡・土佐山地区の回答が多い傾向。総数は多くないものの、開発行為や条例などの規制不足に土佐山地区の回答が多いことは示唆的。

3-5 残したい場所を守っていくための取組

- ◇「住民（組織）等による保全活動」を選んだ人が約半数で最多。そのほか比較的多いのは、「保全活動をする人材の育成」（37.9%）、「保全活動に対する支援の充実」（36.7%）。
- ☞自分たちが残したい場所を守るためには、自分たちの手で保全するという意識が高い。

3-6 鏡川及び流域の自然環境や風景を守るためにできること

- ◇「鏡川をきれいに保つ清掃活動」が半数を超えた。
- ◇それ以外では「文化伝統を継承する活動」（24.2%）、「環境教育活動」（19.4%）が比較的高かった。
- ☞清掃活動は、比較的手軽に参加できることから選択されたと推察される。そのほかに全体として 3 割を超えるものはなく、意見が分かれたことが特徴的。

3-7 悪くなっていると感じる場所

- ◇場所を特定せず範囲で回答した人が多く、「上流域」が最多。次いで「下流域」、「中流域」と続く。「全流域」と回答した人も多い。
- ◇上流域では、台風 21 号被害による倒木の後始末が不十分という声、雑木、河岸の管理不足による川の見通しが悪いこと、下る道がわからないといった声が多い。
- ◇下流域では、コンクリート護岸による殺風景な景観悪化を指摘する声が多い。中流域では、川にアシが茂って景観が悪化しているとの意見が見られた。
- ◇ダムを挙げる人は比較的多く、その理由のほとんどは大雨の後のゴミや流木に対するもの。
- ◇森林の手入れ不足による土砂の流出、耕作放棄地に対する意見も多い。
- ◇特定の場所として悪いと指摘されたのは、「重倉川」、「セツ淵」、「土佐山のつり橋」、「大河内」、「鏡小浜」など。いずれも土砂流出や護岸、アシ、ゴミ問題、管理不足による川への見通しの悪さといった理由が多い。
- ☞現在、指定候補地とされている場所のうち、悪いと指摘されているのは、「吉原川（川が見えない）」、「的淵川（台風で倒木だらけ）」、「樽の滝（木が成長し滝が見えない）」、「土佐山のつり橋（3 年前の大雨から復元されていない）」、「大穴峡（修復がコンクリートで自然とマッチしていない）」など。

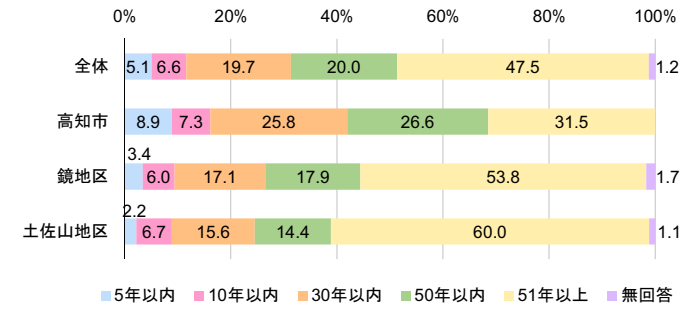
3-8 残していきたい場所

- ◇特定の場所として多かった場所は以下の通り。
- 〔 ・宗安寺の河原 ・天神大橋から紅葉橋周辺 ・鏡小浜、川口橋周辺 ・畑川橋周辺 ・鏡ダム周辺
・吉原川周辺 ・的淵川流域 〕
- ☞現在、指定候補地とされている場所以外で挙げてきた場所は「穴川川（ホタル）」、「日ノ浦トンネル南入口付近（山桜・紅葉）」、「月の瀬橋から潮江橋（子どもたちや家族連れで賑わう）」、「九反田橋下流（生きものが豊富で干潟そのもの）」、「天神橋周辺（鏡川の名前の由来で歴史的な場所も近くに多い）」。

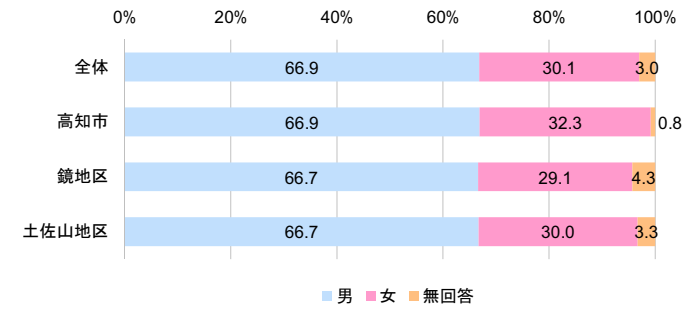
3-9 鏡川と聞いてイメージするもの・こと

- ◇水や川そのものに関する意見が最も多く、それに対する悪いイメージも少なくない。ダムや水の濁りに関するものが目立つ。一方で、良いイメージは、「清流」や「きれい」、「透明」といったものがかなり多い。
- ◇このほか良いイメージは、生きものの多様性、自然の豊かさ、名所旧跡、水泳やウォーキングに適した川であることなどが代表的な意見。
- ◇悪いイメージは、生物相の貧しさ（ウナギやツガニがいなくなった）、ゴミ問題、河原の管理不足などが挙げられる。
- ☞鏡川に対するイメージは水や川そのもの、生きもの、景観に関するものなど人それぞれ。また、その捉え方も人によって異なる。総じてみれば良いイメージを持っている人の方が多く、また、子供の頃の思い出など昔の姿を今もイメージとしてとらえている人も多い印象。

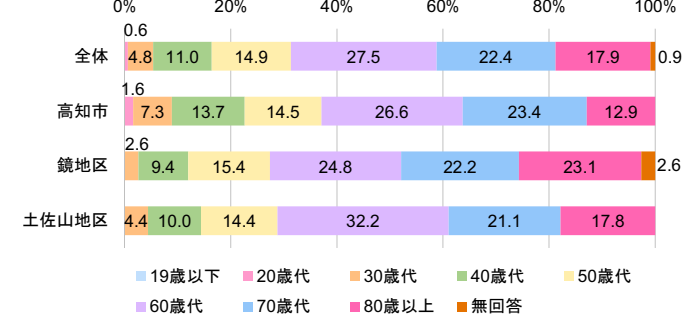
居住年数



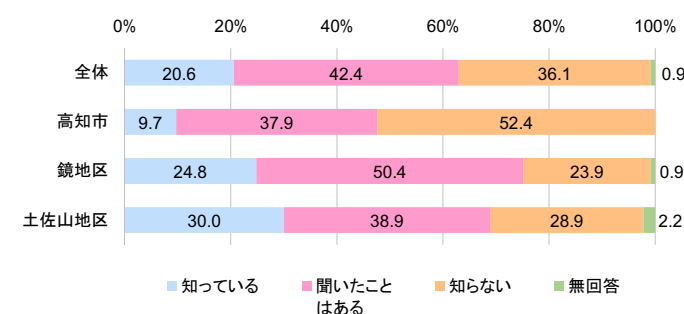
性別



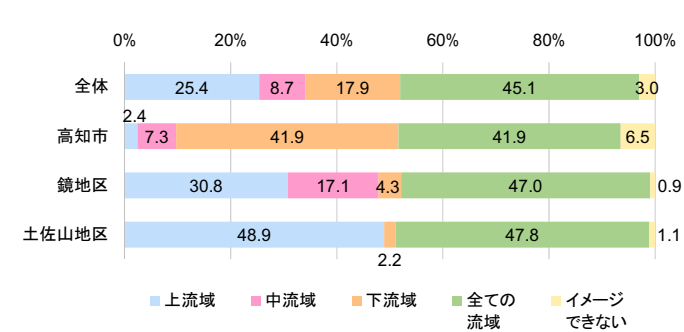
年代



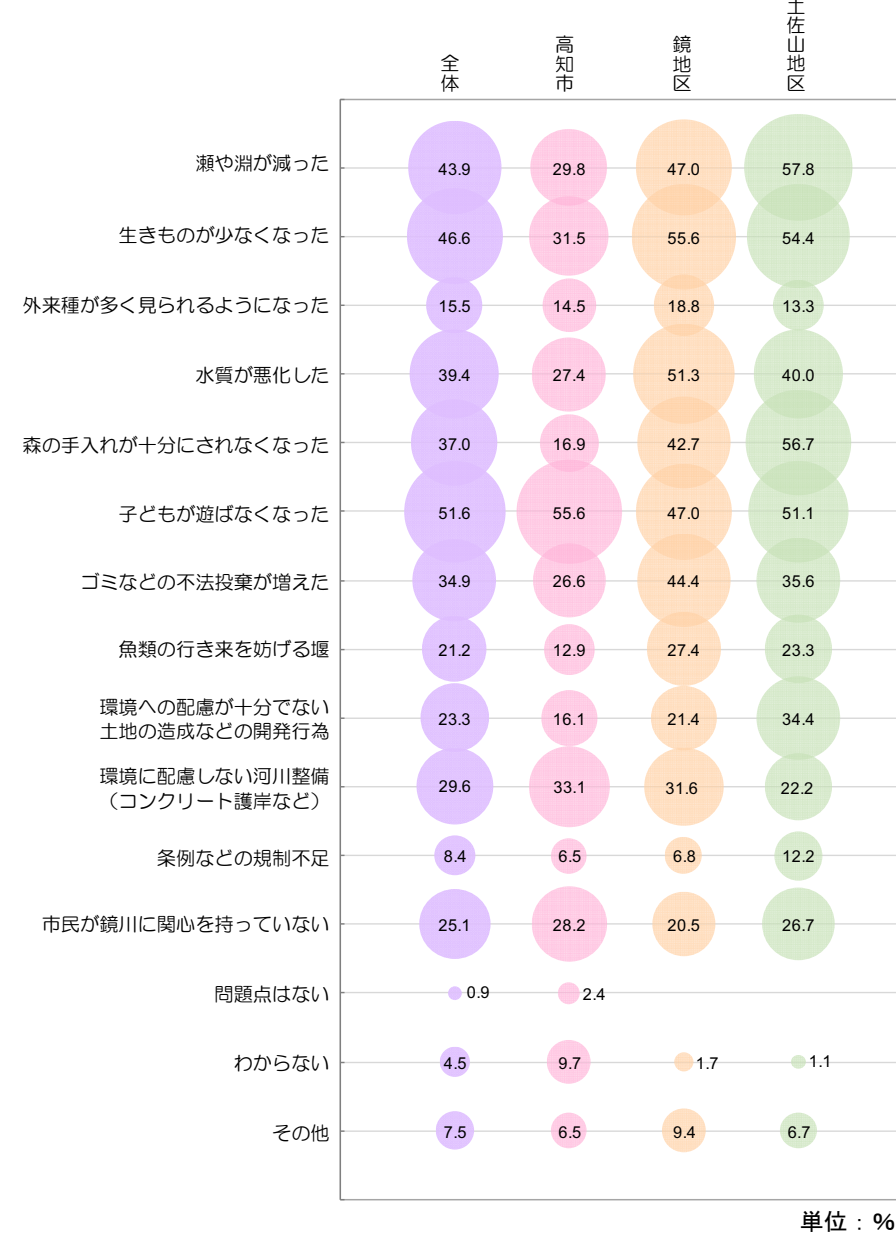
鏡川清流保全条例の認知度



鏡川と聞いてイメージする場所



鏡川及び流域の問題点

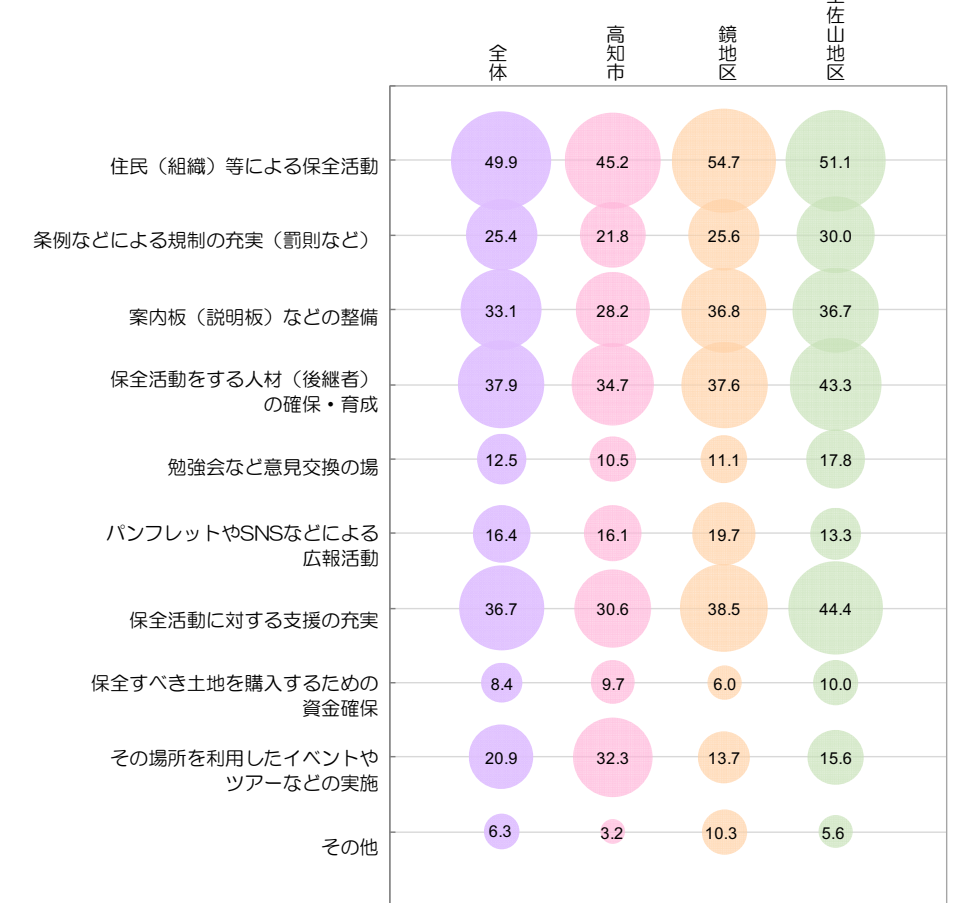


単位：%

3 地区別集計（選択設問のみ）

全体（335）
高知市（124）
鏡地区（117）
土佐山地区（90）

残したい場所を守っていくための取組



鏡川及び流域の自然環境や風景を守るためにできること

